

ペットドック（定期健康診断）

最近、生活環境の改善や飼い主さんの意識向上のためペットの平均寿命も年々伸びています。そのため、人間と同じようにペットも高齢に伴う病気が増え、腫瘍、腎不全、肝不全、心不全、糖尿病などが増えてきました。また、食生活の多様化や運動不足からペットの肥満も多くみられます。ペットは自分で健康管理や食事を取ることができません。家族の一員であるペットを病気から守るためには毎日の注意深いチェックが重要になってきます。しかし、内部から来る病気は単純に外見から判断することは困難です。

一般的にペットの1年は人間の4-5年に相当すると言われています。大型犬は5-6歳から、小型犬や猫は6-7歳から年に1回の健康診断をお勧めいたします。年齢や生活環境などで色々な組み合わせがありますので詳しくは獣医師にご相談ください。

血液検査

- ・血液検査では白血球数、血小板数、貧血、肝・腎機能、血糖値、脂質検査、総タンパク質など内臓の機能検査を調べます。現在の臓器の状態がわかります。

レントゲン検査

- ・レントゲン検査では骨の異常のほかに胸部や腹部の内臓の異常や1 cm以上の腫瘍病変など外部から分からない病気を調べることができます。また消化管造影や尿路造影などにも有効です。

超音波検査

- ・レントゲン検査では判断しにくい臓器内部の構造やレントゲン検査では危険な妊娠判定などに使用します。

糞便検査

- ・糞便検査では主に寄生虫卵、糞便内の細菌バランス、消化状態などを判断します。お散歩やノミから寄生虫をもらったり、子犬は母親からうつされたりすることがありますので定期的な検査をお勧めします。

尿検査

- ・尿検査では尿比重や尿糖、潜血反応、尿結石検出などの数種類の検査を行います。初期の腎不全を発見したり、膀胱炎、尿石症などの検査にも有用です。尿は新鮮なうちに検査すると正確な診断が出ます。

その他

- ・年齢や病状に応じて甲状腺ホルモンや副腎皮質ホルモンなどのホルモン検査やアトピー性皮膚炎などのアレルギー検査、猫エイズ、猫白血病などの各種感染症の検査などが行うことができます。詳しくは獣医師にご相談ください。